CRÉDIT AGRICOLE S.A.

2009 年 5 月 14 日　パリ

クレディ・アグリコル・グループ*

2009 年第 1 四半期

純利益（グループ帰属分）：4 億 2,700 万ユーロ

Tier 1 比率：9.2%

クレディ・アグリコル・エス・エー

2009 年第 1 四半期

純利益（グループ帰属分）：2 億 200 万ユーロ

Tier 1 比率：8.8%、うちコア Tier 1 比率：8.0%

＊ クレディ・アグリコル・エス・エーおよび地域銀行　100%連結ベース

クレディ・アグリコルは 2009 年 5 月 13 日、ルネ・キャロン会長を議長とする取締役会を開催し、2009 年第 1 四半期決算の承認を行いました。

金融危機から得た教訓に基づき主要事業ラインの再構築をほぼ完了した状況下で、クレディ・アグリコル・エス・エーは継続的で安定した収益を生み出すことに注力していきます。

金融危機の教訓

増資の決定は 2008 年の春に、クレディ・アグリコル・エス・エーの財務強化を目的として行われました。
2009 年 3 月末時点の当社の財務は強固で、Tier 1 比率は 8.8%となり、新規取引はありませんでした。加えて、当社は約 5,000 億ユーロの顧客預金と活発な借り換えを基盤にした極めて健全な流動性ポジションの恩恵を受けています。

また、クレディ・アグリコル・エス・エーのすべての分野で費用の削減を行うことも決定しました。これにより、営業費用は前年同期比 7.5%減の 2 億 4,000 万ユーロと、特に大幅に減少しました。費用の削減は全部門で行われ、特に法人営業、投資銀行部門は−16.3%、資産運用部門は−17.5%、国際リテール・バンキング部門は−2.3%、自社運用資産部門は−23.6%となりました。

改革の大部分が終了

同時に、カリヨンの事業を主要事業ラインに再び集中させ、リスク因子を減らすこととしました。カリヨンは 2009 年第 1 四半期の戦略的事業で好調なパフォーマンスを収め、「リフォーカス・プラン」の目標を達成しました。非継続事業は、非標準型エクイティ・デリバティブのエクスポージャーを 60%削減するなど、さらなる削減を行いました。

一部の事業ラインの組織内改革も成功をおさめており、保険部門ではクレディ・アグリコル・アシュアランスを設立し、銀行の販売統合モデルに基づき個人保険、損害保険、信用保険を統合し、フランス国外での展開も行いました。専門金融サービス部門では、潜在的利益の増加と支援機能の統合を目的として、ユーロファクターと CA リーシングが合弁事業を立ち上げました。

1 月下旬に発表された CAAM と SGAM の合併により、資産運用における欧州の市場リーダーを創出したことは、当事業ラインの強化を行うための重要な取り組みのひとつです。

継続的で安定した収益を生み出すことに注力

同時に、厳しい市場環境にもかかわらず事業推進力は保たれました。銀行業務純益はほぼ安定しており、スエズ株売却による売却益が含まれていた 2008 年第 1 四半期に比べ 1.2%減少しました。この売却益を除くと、銀行業務純益は 25.8%増加しました。

この推進力には継続的に利益を上げるすべての事業が反映されました。フランス国内のリテール・バンキングでは、LCL の過去数四半期の銀行業務純益がフランスに上場する銀行で最大の伸びとなった一方、地域銀行部門は、取り扱いが可能になった非課税貯蓄預金で半数の市場シェアを獲得しました。当グループのフランス国内の消費者金融の市場シェアは 18.2%から 19%に上昇しました。ファクタリング事業では、ユーロファクターが当四半期で市場シェアを 1%増加させ、22.6%となりました。資産運用(ミューチュアル・ファンド)での当グループの市場シェアは 19%となり、フランス国内での市場のリーダーとしての地位を確固たるものとしました。プレディカ(生命保険)とパシフィカ(損害保険)は共に市場を大幅に上回る成長率となりました。

収益の増加と費用の両面の効果が極めて好調だったことから、営業総利益は 21.4%増の 10 億 8,300 万ユーロと堅調な伸びとなりました。経済環境の悪化から事業ラインの多くでリスク関連費用が急増しましたが、これにより相殺されました。

全体では、純利益(グループ帰属分)が 2 億 200 万ユーロに達しました。法人営業、投資銀行部門の非継続事業を除いた純利益(グループ帰属分)は 6 億 1,800 万ユーロとなり、当グループ全事業ラインの堅調な業績を反映したものとなりました。

* *
*

取締役会終了後、クレディ・アグリコル・エス・エー会長であるルネ・キャロンと最高経営責任者であるジョルジュ・ポジェから以下のコメントがありました。「金融危機から学んだ教訓を活かし、主要事業ラインの改革も大半を終えたことから、クレディ・アグリコル・エス・エーは継続的で安定した収益を生み出すことに注力していくことを決断しました。」

2009 ファイナンシャル・カレンダー

2009 年 5 月 19 日	年次株主総会(パレ・ド・コングレ、パリ)
2009 年 5 月 27 日	権利落ち日
2009 年 6 月 23 日	配当支払日
2009 年 8 月 27 日	2009 年第 2 四半期決算発表
2009 年 11 月 10 日	2009 年第 3 四半期決算発表

（百万ユーロ）	2009年第1四半期	2008年第1四半期	対前年同期比
銀行業務純益	**4,061**	**4,110**	**(1.2%)**
営業費用	(2,978)	(3,218)	(7.5%)
営業総利益	**1,083**	**892**	**+21.4%**
リスク関連費用	(1,085)	(446)	x2.4
営業利益	**(2)**	**446**	-
関連子会社	321	343	(6.4%)
その他資産処分損益	3	422	(99.3%)
税金	(82)	(205)	(60.0%)
純利益	**246**	**1,006**	**(75.5%)**
純利益（グループ帰属分）	**202**	**892**	**(77.4%)**

クレディ・アグリコル・エス・エー・グループの 2009 年第 1 四半期**銀行業務純利益**は 40 億 6,100 万ユーロと、スエズ株売却による 8 億 8,200 万ユーロの売却益を含んでいた 2008 年第 1 四半期に比べわずかに減少しました。この売却益分を除くと、銀行業務純益は 25.8%の増加となり、金融危機の影響の軽減とその影響を吸収した当グループの能力を反映したものとなりました。
銀行業務純益には戦略的事業が極めて好調だった法人営業、投資銀行部門の 12 億ユーロが含まれています。また、LCL が銀行業務純益で 2.5%増と好調だったことと、専門金融サービス部門が堅調だったことも反映されました。専門金融サービス部門にはデュカートの業績が初めて含まれ、当事業ラインの銀行業務純益は 17.6%増となりました。しかし、資産運用、保険、プライベート・バンキング部門は引き続き市場の影響を受けており、銀行業務純益は 27.7%減少しました。国際リテール・バンキング部門の銀行業務純益にはポーランド・ズロティ関連の為替差損と引き続き行われているエンポリキでの事業の再構築が反映されています。この2つの要因を除くと、銀行業務純益の減少は軽微で、2008 年第 1 四半期と比べ安定した状態が続きました。

営業費用は 7.5%の減少と厳しく管理されており、当グループのすべての事業ラインと製品の競争力を高めることに貢献しました。資産運用、保険、プライベート・バンキング部門は 7.7%減と特に減少幅が大きく、同事業ラインの持つ市場環境への適応力の高さを示しています。法人営業、投資銀行部門の営業費用は、「リフォーカス・プラン」に従い、前年同期比 16.3%の減少、戦略的事業では同 14.7%の減少となりました。

第 1 四半期の**営業総利益**は前年同期比 21.4%増の 10 億 8,300 万ユーロとなり、リスク関連費用の急増を補いました。

リスク関連費用は経済状況の悪化を反映し、バーゼル I リスクウェイト資産比率が前年同期比 2.4 倍増の 116bp となりました。これは主に、専門金融サービス（−2 億 6,500 万ユーロ）、国際リテール・バンキング（−2 億 6,700 万ユーロ、主にエンポリキ）、ファイナンス事業（−2 億 7,500 万ユーロ）に関連するものです。
不良債権の他行預け金および顧客貸付金の総額に占める比率は 3.3%になります。このうち 50.1%は、一括貸倒引当金を除く個別貸倒引当金でカバーされました。

関連子会社による収益は地域銀行部門の 2 億 6,500 万ユーロを含め、3 億 2,100 万ユーロとなりました。これはフランス国内のリテール・バンキングの強い回復力を反映しており、地域銀行部門の業績は堅調で、リスクの増加分をカバーしました。関連子会社による収益には、バンクインターの2100万ユーロと BES の2500万ユーロも含まれています。

その他資産処分損益は、2008 年は合弁先物ブローカレッジ会社であるニューエッジの設立による 4 億 2,000 万ユーロの売却益を含んでいましたが、2009 年第 1 四半期は大きな取引はありませんでした。

全体で、**純利益(グループ帰属分)**は 2 億 200 万ユーロとなりました。法人営業、投資銀行部門の非継続事業を除いた純利益(グループ帰属分)は当グループ事業ラインの好調な業績を反映し、6 億 1,800 万ユーロとなりました。

財務状況

クレディ・アグリコル・エス・エーは引き続き極めて堅固な財務状況による恩恵を受けています。

新規取引はなく、Tier 1 比率は 8.8%となりました。しかしながら、一部資産の格下げの影響を受けており、株主資本からの直接控除につながっています。
コア Tier 1 比率は 8.0%と高い水準を維持しています。

クレディ・アグリコル・エス・エーの流動性ポジションも極めて健全です。2009 年の新株発行予定額(約 350 億ユーロ)の半分以上を第 1 四半期に発行しました。さらに、各中央銀行からの借り入れ可能額は 1,000 億ユーロを超えています。

最後に、クレディ・アグリコル・エス・エーは地域銀行の業績に強く支えられています。2007 年 7 月に金融危機が始まってからも、スタンダード・アンド・プアーズでは AA-、ムーディーズでは Aa1 の格付けを維持しています。

クレディ・アグリコル・グループの Tier 1 比率は 9.2%となり、フロアなしでは 10.0%となります。

1. 資産運用、保険、プライベート・バンキング部門

資産運用、保険、プライベート・バンキング部門はそれぞれの市場でリーダーの立場にあり、金融危機後の段階に向けた準備を進めています。各事業ラインでは改革が進められており、ソシエテ・ジェネラルとの資産運用事業の合併、保険持株会社の設立、カセイス株の過半数取得に関する交渉、当グループの複数の事業ラインにおけるプライベート・バンキング顧客のフォローアップの統合の推進などが行われました。
資金流入総額は 77 億ユーロ[4]に達し、運用資産の総額は 7,510 億ユーロ、重複を除くと 5,610 億ユーロとなりました。
2009 年第 1 四半期は、すべての事業ラインで費用が管理され、リスク関連費用がほぼゼロになったことから、各事業ラインの環境は厳しかったものの、当部門の純利益(グループ帰属分)は 2 億 4,200 万ユーロとなりました。

(百万ユーロ)	**2009年第1四半期**	**2008年第1四半期**	**対前年同期比**
銀行業務純益	**794**	**1,098**	**(27.7%)**
営業費用	(446)	(484)	(7.7%)
営業総利益	**348**	**614**	**(43.4%)**
リスク関連費用	1	(5)	-
関連子会社	**349**	**609**	**(42.7%)**
その他資産処分損益	1	-	x2.7
税引前利益	**350**	**609**	**(42.6%)**
純利益(グループ帰属分)	**242**	**415**	**(41.8%)**

特に**資産運用事業**は極めて厳しい経済環境のなかを持ちこたえ、競争的地位を確固たるものとしました。なかでもミューチュアル・ファンド市場では 19%のシェアでフランス国内第 1 位となりました。欧州における当グループの市場シェアは 4.4%となっています。21 億ユーロの資金が流入し、主にリスクの少ない商品へ焦点を当てることが続き、マイナスの市場効果は 38 億ユーロに上りました。この状況の中、2009 年 3 月 31 日時点の運用資産残高は約 4,560 億ユーロとなりました。
市場環境が悪化しているため、当事業ラインは引き続き費用削減に取り組んでおり、営業費用は前年同期比で 17.5%の減少、前期比で 6.5%の減少となりました。資産配分が不調で利幅が減少したにもかかわらず、費用/収益比率は 55%に低下しました。

証券サービス事業では、運用資産も下落幅が軽微に抑えられ、堅調でした。保管資産は前年同期比 4.9%減の 2 兆 190 億ユーロ(既存店ベースで 13.0%減)となった一方、管理資産は前年同期比 2.5%増の 9,330 億ユーロ(既存店ベースで 12.0%減)となりました。営業費用が前年同期比で 2.6%の減少、前期比では 6.5%の減少となった結果、純利益(グループ帰属分)は前年の水準を維持しました。

プライベート・バンキング事業は、当四半期の新規純流入額が 15 億ユーロと十分な額となり、市場と為替による 7 億ユーロのマイナスの影響を補いました。プライベート・バンキング事業の管理資産[1]は総額で 1,043 億ユーロとなりました。当事業ラインも営業費用の管理を続けており、前年同期比で 4.8%の減少、前期比で 9.5%の減少となりました。第 1 四半期のリスク関連費用はゼロとなり、管理能力の質の高さを証明しています。第 1 四半期の純利益は 2,200 万ユーロとなりました。

生命保険事業では、2009 年第 1 四半期に堅調で回復力のある事業推進力を示しました。保険料収入は 64 億ユーロに達し、市場の成長率がわずか 3%だったのに対しフランスでは 13.5%と大幅に上昇し、他の国では特にルクセンブルグやポーランドで上昇しました。2009 年 3 月 31 日時点の数理的責任準備金は前年同期比 4.7%増(既存店ベースでは 2.2%)の 1,910 億ユーロとなりました。このような業績から当グループのフランス国内での市場シェアは 15.4%を維持することができており、質の高い商品へ投資する健全なファンダメンタルズ(債券投資の 99.5%は投資適格債、80%以上が AA 格以上)、ポートフォリオの安全性を確実に増強することによる効果的な管理(株式のエクスポージャーを 5%未満に削減)、海外における持続的で堅固な成長の源泉(保険料収入の 18%がフランス国外から)がその基盤となっています。

損害保険事業もまた、フランス国内の保険料収入が前年同期比 17.0%増の 8 億 3,800 万ユーロと市場を上回るパフォーマンスを収めております。 また、フランス国外へのフランチャイズ展開もさらに拡大しています。農家や小企業対象の損害保険では保険料収入が 28.5%増加し、保険契約数は 20.6%の増加、個人向け健康保険の売上が 11.6%の増加、銀行関連商品が 36.5%の増加となりました。この最も競争の激しい事業での成長率は経済状況のために減速しましたが、依然として市場動向を上回っています(自動車保険は 4.3%増、総合住宅保険は 4.9%増)。しかしながら当事業ラインの第 1 四半期の業績は冬の嵐クラウスとクウィンテンの影響を大きく受け、請求による費用の割合は約 25pp 低下しました。

第 1 四半期の保険事業による純利益は、総額で 1 億 400 万ユーロとなりました。

[1] 国際リテール・バンキング事業、プライベート・バンキング事業を除く

2. 法人営業、投資銀行部門（カリヨン）

法人営業、投資銀行部門は、2008 年 9 月 10 日に発表された「リフォーカス・プラン」の目標に沿って慎重な経営が行われ、第 1 四半期の戦略的事業における業績は極めて好調でした。

（百万ユーロ）	2009年 第1四半期	2009年 第1四半期 戦略的事業	2008年 第1四半期	2008年 第1四半期 戦略的事業	対前年 同期比 戦略的事業	対前期比 戦略的事業
銀行業務純益	**1,157**	**1,600**	**(81)**	**1,876**	**(14.7%)**	**(14.0%)**
営業費用	(784)	(755)	(936)	(885)	(14.7%)	+0.2%
営業総利益	**373**	**845**	**(1,017)**	**991**	**(14.7%)**	**(23.7%)**
リスク関連費用	(435)	(301)	(170)	(168)	+79.2%	(36.1%)
営業利益	**(62)**	**544**	**(1,187)**	**823**	**(33.9%)**	**(14.5%)**
関連子会社	37	37	32	32	+15.6%	x2.1
その他資産処分損益	2	2	0	0	-	-
税引前利益	**(23)**	**583**	**(1,155)**	**855**	**(31.8%)**	**(10.4%)**
税金	11	(170)	381	(265)	(35.8%)	+15.3%
純利益（グループ帰属分）	**(17)**	**399**	**(795)**	**569**	**(30.0%)**	**(21.2%)**

戦略的事業は特に業績が堅調だったことから、純利益（グループ帰属分）が 3 億 9,900 万ユーロとなりました。ローン・カバーや負債の価格調整を除いた銀行業務純益は前年同期比で 17%の増加となり、ストラクチャード・ファイナンス、商業銀行およびブローカレッジ業務および債券、外国為替市場という 3 つの戦略的事業における当グループの揺るぎない地位を反映しています。
非継続事業の削減も進みました。非標準型のエクイティ・デリバティブによる収益は損益分岐点に近く、CDO、CLO、ABS、保証会社に対する 5 億 7,000 万ユーロの減損費用はマクロヘッジで一部相殺されました。しかし信用相関業務は引き続き、信用市場動向のマイナスの影響を受けました。
法人営業、投資銀行部門の営業費用は、2009 年第 1 四半期に 141 人の人員削減（正規従業員）を行い、経営陣の賞与に対する新たな規制を考慮した結果、2008 年第 1 四半期からさらに 16.3%減少しました。しかしながら、これらの費用削減は 2009 年の年頭から商業的な成功を収めていた銀行の営業チームの縮小によって達成したものではありません。債券における顧客関連収益は 2006 年の各四半期平均よりも 30%、2007 年より 20%、2008 年より 5%増加しました。カリヨンは、また EDF トレーディングと欧州のガス・電力卸売市場で新たに業務提携することを発表しました。これを機に、カリヨンの既存顧客に対しファイナンスに加えてエネルギーを提供することでクロス・セルを進めることが可能になります。
第 1 四半期のリスク関連費用は 4 億 3,500 万ユーロと引き続き高い水準となっており、これには戦略的事業関連の 3 億 100 万ユーロが含まれています。これは主に経済危機の深刻化を背景に、一括貸倒引当金が増加したことによるものです。

ファイナンス事業

ファイナンス事業による利益は前年同期の 5 億 6,900 万ユーロから 5 億 8,000 万ユーロに増加しました（200 万ユーロのシンジケーション割引および-1 億 2100 万ユーロの CDS ローン・カバー非実現、実現利益を除く）。第 1 四半期の商業銀行業務、プロジェクト・ファイナンス、航空機ファイナンスにおける事業推進力は特に堅調でした。しかしながら、不動産および貿易ファイナンス事業は減速しました。

（百万ユーロ）	**2009年 第1四半期**	**2008年 第1四半期**	**対前年 同期比**	**対前年同期比 （恒常為替レート ベース）**
銀行業務純益	**456**	**569**	**(19.9%)**	**(25.9%)**
営業費用	(210)	(229)	(8.5%)	(11.3%)
営業総利益	**246**	**340**	**(27.5%)**	**(35.8%)**
リスク関連費用	(275)	(101)	x2.7	
営業利益	**(29)**	**239**	-	
関連子会社	38	32	+18.8%	
その他資産処分損益	2	0	-	
税引前利益	**11**	**271**	**(95.8%)**	
税金	(2)	(86)	(97.3%)	
純利益（グループ帰属分）	**5**	**170**	**(97.1%)**	

費用は引き続き厳格に管理されており、前年同期比で 8.6%の減少となりました。費用/収入比率は 46%と依然として極めて低い水準を維持しています。

経済状況の悪化を反映して、第 1 四半期のリスク関連費用は 2 億 7,500 万ユーロに増加しました。これは主に一括貸倒引当金によるもので、バーゼルⅠリスクウェイト資産比率で 93pp となっています。

2009 年第 1 四半期の純利益の総額（グループ帰属分）は 500 万ユーロとなりました。

当四半期のバーゼルⅡリスクウェイト資産は、通貨の変動とカウンターパーティの格付けが引き下げられたことを受け 47 億ユーロ増加した一方、貸付残高は依然安定しています。

資本市場、投資銀行部門

第 1 四半期の資本市場、投資銀行事業は引き続き好調でした。

(百万ユーロ)	2009年 第1四半期	2009年 第1四半期 戦略的事業	2008年 第1四半期	2008年 第1四半期 戦略的事業	対前年 同期比 戦略的事業	対前期比 戦略的事業
銀行業務純益	**701**	**1,144**	**(650)**	**1,307**	**(12.5%)**	**+62.0%**
営業費用	(574)	(545)	(707)	(656)	(16.9%)	(1.6%)
営業総利益	**127**	**599**	**(1,357)**	**651**	**(8.0%)**	**x3.9**
リスク関連費用	(160)	(26)	(69)	(67)	(61.2%)	(86.4%)
営業利益	**(33)**	**573**	**(1,426)**	**584**	**(1.9%)**	-
関連子会社	(1)	(1)	0	0	-	(88.9%)
税引前利益	**(34)**	**572**	**(1,426)**	**584**	**(2.1%)**	-
税金	13	(168)	467	(179)	(6.1%)	-
純利益(グループ帰属分)	**(22)**	**394**	**(965)**	**399**	**(1.4%)**	-

戦略的事業のうち、株式部門(エクイティ・デリバティブ、ブローカレッジ、投資顧問サービス)の収益は、デリバティブ事業の利益が損益分岐点まで回復したことを受け、3 億 100 万ユーロとなりました。一方、株式ブローカレッジは依然として厳しい市場環境の影響を受けました。 トレーディング額の減少によって好調な状態が続いていたニューエッジの業績も減速傾向にあります。
債券部門は優れた業績を収め、前期比 87%増となる 8 億 9,700 万ユーロの利益となりました。これらの結果はプレーンな債券部門における堅調な事業推進力によるものであり、厳しい 2008 年度を終えた当四半期における債券デリバティブや債券発行の収益の成長に支えられました。資金及び外国為替部門も引き続き好調となりました。
ストラクチャード商品の再評価によるマイナスの影響(当四半期で 5,400 万ユーロ)にもかかわらず、資本市場、投資銀行部門の戦略的事業の総利益は前年同期比で 12.5%の減少、前期比で 62.0%の増加となる 11 億 4,400 万ユーロとなりました。

第 1 四半期の非継続事業による収益は- 4 億 4,300 万ユーロとなり、2008 年第 4 四半期と同じ水準となりました。これには当四半期に ABX 指数においてより厳しい損失シナリオが適用された結果発生した、CDO、CLO、保証会社に対する 5 億ユーロの追加の減損費用も含まれています。これらの減損費用は、CDO(ヘッジなし)関連が 2 億 300 万ユーロ、CLO(ヘッジなし)が 1,500 万ユーロ、モノラインに対する引当てが 2 億 5,200 万ユーロ、CDPC(Credit Derivative product Company) に対する引当てが 3,000 万ユーロとなっています。
これらの減損費用は、2008 年 7 月に設定したマクロヘッジによる 3 億 6,700 万ユーロの利益で一部相殺されました。
信用相関事業はクレジット・スプレッドと相関変動によるマイナスの影響を受けました。

資本市場、投資銀行部門の営業費用は前年同期比で 18.8%の減少、前期比で 8.0%の減少となりました。

当四半期のリスク関連費用は主に非継続事業関連の 1 億 6,000 万ユーロとなりましたが、これには 2008 年 10 月[2]以降に金銭債権と分類されたCDO、CLO、保証会社に対する一括貸倒引当金 7,000 万ユーロを含んでいます。

2009 年第 1 四半期の純利益の総額(グループ帰属分)は-2,200 万ユーロとなり、非継続事業を除くと 3 億 9,400 万ユーロとなりました。

[2] 2008 年 10 月 1 日に実施した評価額での金融資産の再分類や売却可能な資産の再分類で、当四半期の 7 億ユーロの評価額の調整は相殺されました。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

クレディ・アグリコル・グループの 2009 年第 1 四半期の銀行業務純益は 72 億ユーロとなりました。2008 年第 1 四半期と同水準となりましたが、2008 年のスエズ株の売却による売却益を除くと、12.9%の増加となりました。
営業費用は厳格に管理されており、前年同期比 6.2%の減少となりました。
営業総利益は地域銀行の好調な営業成績を反映し、前年同期比 11.9%増の 24 億ユーロとなりました。
リスク関連費用は市場環境の悪化を受け、前年同期比 2.4 倍と大幅に増加しました。これは当初極めて低かった地域銀行でのリスク関連費用増加及び専門金融サービス、国際リテール・バンキング、ファイナンス事業に関連した費用増加が主たる要因です。
純利益(グループ帰属分)は、法人営業、投資銀行部門の非継続事業による収入を含め、4 億 2,700 万ユーロとなりました。

(百万ユーロ)	2009年第1四半期	2008年第1四半期	対前年同期比
銀行業務純益	**7,195**	**7,254**	**(0.8%)**
営業費用	(4,776)	(5,092)	(6.2%)
営業総利益	**2,419**	**2,162**	**+11.9%**
リスク関連費用	(1,559)	(661)	x2.4
営業利益	**860**	**1,501**	**(42.7%)**
関連子会社	54	71	(23.9%)
その他資産処分損益	(1)	424	-
税引前利益	**913**	**1,996**	**(54.3%)**
税金	(448)	(567)	(21.0%)
純利益	**471**	**1,429**	**(67.0%)**
純利益(グループ帰属分)	**427**	**1,316**	**(67.5%)**

* * *

当プレス・リリースおよび関連スライドは四半期財務情報に関連する規則に従って、
www.credit-agricole-sa.frの「財務報告」セクションで入手することが可能です。

Investor relations
Denis Kleiber ☎ +33 (0)1 43 23 26 78
Philippe Poeydomenge de Bettignies ☎ +33 (0)1 43 23 23 81
Annabelle Wiriath ☎ +33 (0) 1 43 23 40 42
Colette Boidot ☎ +33 (0)1 57 72 38 63
Brigitte Lefebvre-Hebert ☎ +33 (0) 1 43 23 27 56

Press contacts
Crédit Agricole S.A.
Anne-Sophie Gentil ☎ +33 (0)1 43 23 37 51
Stéphane Petibon ☎ +33 (0)1 57 72 46 63
Stéphanie Ozenne ☎ +33 (0)1 43 23 59 44
M: Communication
Louise Tingström ☎ +44 (0) 789 906 6995

Disclaimer
This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).
This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.
Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.
Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.
Applicable standards and comparability
The figures in this document have been drawn up in accordance with the IFRS accounting standards adopted by the European Union.